

有線放送電話を有効に活用していますか？

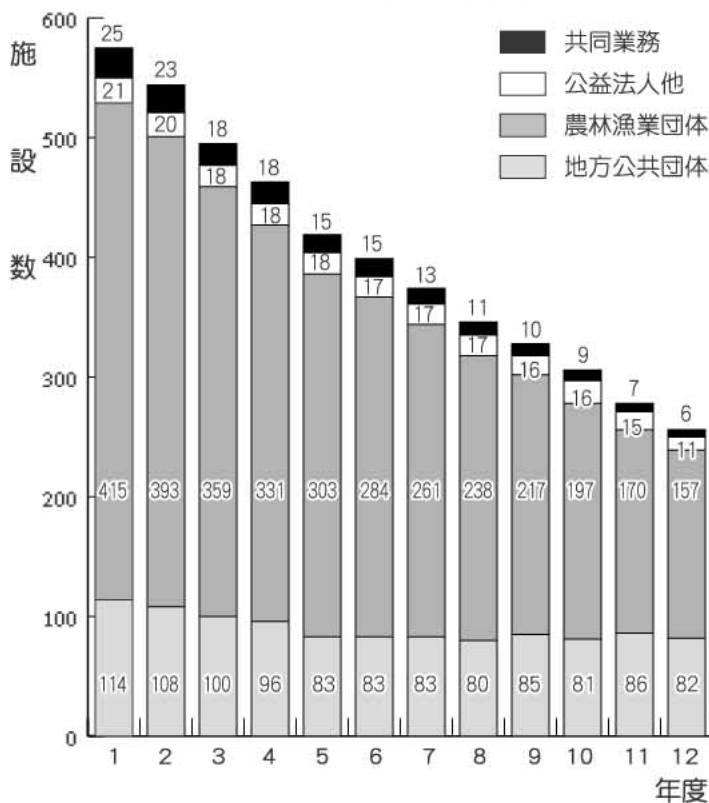
近年の急速な情報技術・通信技術の進歩によって、社会全般に情報化が広がり住民の日常生活においても高度な情報通信技術が浸透しつつあります。

このような時代背景を踏まえ、また、現状の有線放送電話施設の老朽化による更新が必要なことから、町では、「富士見町有線放送電話運営審議会」へ今後のあり方として「情報化時代に対応した住民サービスの提供とそれに伴うネットワーク環境について」検討をお願いしております。



町民の生活に密着した有線放送電話ですが近年管理補修に膨大な経費がかかり見直しが迫られています

■全国の有線放送電話施設数の推移



全国の有線放送電話施設の現状

全国的には有線放送電話施設は廃止化の傾向にあり、その件数はここ10年間で約半数まで減少しています。

施設廃止の主な理由として、N

TTによる公衆電話網の普及および携帯電話の普及により、有線放送電話の電話機能としての役割が終わったことが挙げられます。この結果、有線放送電話施設の設備メーカーも従来の7社ほどから2社に減少しており、ハードの調達面でも選択肢が狭められています。

富士見町有線放送電話施設の現状

富士見町有線放送電話は、昭和34年4月に有線放送電話の事業認可を受けました。施設は、現在町で所有しているものとして、交換設備と線路設備があります。

交換設備については、昭和63年6月にデジタル交換機に更新しましたが、経年変化による施設の更新が必要で、管理用端末（有線電話番号の登録・変更・廃止処理、運用記録・障害記録処理等）については、現在製造されておらず、部品調達も困難な状況です。線路設備についても改修工事等が必要です。

また、電話機能は共同回線で、1回線につき最大10世帯が利用するものです。これにより、電話機が共同回線専用（現在は製造されていません）になってしまうこと、同じ回線の1軒で話中もしくは障害が発生した場合、他の電話も利用できなくなるなど制限があります。また、平成14年度の障害受付件数は418件で、そのうちの大半が電話機能障害（発着信不良、雑音、混線など）でした。

（次ページに続く）